

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200862		
法人名	医療法人 祥仁会		
事業所名	グループホーム ハーモニー	ユニット名	1
所在地	〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師3458-1		
自己評価作成日	平成25年7月23日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0870200862-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月17日	評価機関 決裁日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

隣接するクリニックと連携をとり利用者の病状管理、体調管理に努めている。また、グループホーム等で受け入れが困難な透析治療中の方も入居可能。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体の医療機関で人工透析治療を受けていた認知症患者の家族の声がきっかけで開設した事業所である。 現在は全利用者が隣接する運営母体の医療機関で人工透析治療を受けており、利用者と家族等の安心につながっている。 利用者は居間から続く小上がりの和室で昼寝をしたり、入浴後に居間に備えてある冷蔵庫から飲み物を出して飲むなど、思い思いに寛ぎながらゆったりとした時間を過ごしている。 窓外に広がる田園風景を見ることができ、利用者は事業所に居ながらにして季節の移り変わりを眺めて楽しんでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、意識できるよう努めている	「利用者様の立場に立ち、安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援します」や「地域資源と協同し、楽しい暮らしができるよう支援します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 職員が毎朝理念を確認できるよう玄関に掲示し、意識付けをしながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の地域との交流は少ない。事業所としては、数は少ないが、学校行事や子供会行事に協力している	利用者と職員は、毎年地域の子ども会行事の蛍を見る会に参加している。 月2回地域の講師によるボールやバトン、ベルを使って行う3B体操や日本舞踊、カラオケのボランティアを受け入れるとともに、利用者はボランティアに参加している知人や地域の人々との交流を楽しんでいる。 道路を挟んで保育園があるため、園児たちの姿を毎日見ることができ、利用者は園児たちと挨拶を交わすなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、そこでの意見等を参考に活動している	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、民生委員、地域住民の代表を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事、外部評価で明らかになった課題を報告するとともに、意見交換をしたり、時節の話題を話し合ったりしているほか、市職員から情報を得たりして、サービスの質の向上に活かしている。 家族等から出た居室の清掃に関する苦情を運営推進会議で話し合い、職員の支援の取り組み方に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、市主催の懇談会などで市との連携をとり、事業所担当者も情報交換ができるよう市担当課まで何かと顔を出すようにしている	市職員が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は年3回から4回、市が主催する地域密着型サービス事業者懇談会に参加した際に、市担当者との意見や情報を交換している。 代表者は市担当者に運営推進会議の議事録を届ける際に情報交換をしたり、困り事を相談するなどして協力関係を築くように努めている。 月1回市の介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての知識は職員によって個人差があるように見える。参考資料、研修をとおして全職員が理解するように努めたい。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成しているほか、職員は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めているが、内部研修を実施しておらず、全職員に身体拘束の対象となる具体的な行為や弊害の認識を図るまでには至っていない。	内部研修を実施し、全職員が身体拘束の対象となる具体的な行為と弊害を正しく理解することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者等が日常的に注意して防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識、活用とも不十分である		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等十分に説明し同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価ででたアンケートだが、数が少ないと個人が判明してしまうので難しい、慣れた職員が会話の中から聞き取り、会議の中で反映させている	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 職員は利用者から日々のふれ合いの中で、家族等からは電話や面会時に話を聴くよう努めている。 利用者や家族等が運営推進会議の委員になっているため、運営推進会議が意見や要望を出せる機会となっており、出た意見等は運営に反映させているが、家族アンケートを実施するまでには至っていない。 毎月市の介護相談員が来訪し、利用者の相談相手になっている。	意見などを出し難い家族等の心情に配慮し、意見や要望を出し易いよう無記名のアンケートを実施するとともに、出た意見等を運営に反映させるように取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に要望等聞ける体制をとっている	管理者は毎日のミーティング時や月1回の職員会議で職員が意見や要望、提案を出せるよう取り組んでいる。 代表者や管理者は職員から出た希望休や夜勤交代など、勤務体制に関する希望のほか、事業所の行事や外出先に関する提案、備品購入の要望などを受けて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の感覚に差はあるものの、全体的に把握し、よりよい環境で働けるよう努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に研修等は参加しているが、教育面は手薄になっているのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	個人で他施設と交流を持っている者がいるので、それを利用して情報を得ている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者が聞き取りをし、本人、家族との関係作りを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の特色を生かし、医療との連携で必要なサービスを提供している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は病状（透析＋認知）のことも理解して、一緒に生活することの難しさを考えながら関係作りに努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	18をふまえて、家族との外出、外泊や一時帰宅支援等で家族との関係を保てるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に声かけをして協力してもらうようにしている	利用者の親戚や知人が訪れており、来訪時には寛ぎながら話ができるよう配慮している。 利用者は家族等の協力を得て彼岸や盆に墓参りに出かけたり、外食や一泊の温泉旅行に出かけたりしている。 職員は利用者が行きつけの美容院を継続して利用ができるよう家族等の協力を得るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に性格が違うので難しい面がある。職員が間に入り利用者同士がかかわりあえるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者や職員が日常の会話からできるだけ把握できるように努めている	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、日常のふれ合いの中でさりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、個別ノートに記載して全職員で共有しながら利用者の思いにそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	かかりつけの医療機関や家族からの情報収集を行っている。利用の経過についても会議で話し合っている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じような生活の流れになる傾向があるのでストレスを抱えないように考え、職員で話し合いながら支援している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で採り上げ、意見を聞き計画に反映している	介護計画は利用者や家族等の意向、利用者の生活面での課題を把握するとともに、担当職員の意見を反映させながら計画作成担当者を中心に作成し、利用者や家族等に説明して同意を得ている。 介護計画は短期目標を6ヶ月、長期目標を1年と設定し、6ヶ月毎にモニタリングを行って見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画担当者を中心に個別の担当者が情報を取り計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスをベースにできる範囲での対応はしているつもりだが、多機能的なサービスを提供するのは難しい点もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	環境豊かな地域でもあるので季節に合わせた行事などに取り入れて楽しんでもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接クリニックがかかりつけとなっているので連携を取りながら支援している	全利用者が隣接する運営母体の医療機関で人工透析治療を受けており、運営母体の医療機関の医師がかかりつけ医となっている。 運営母体の医療機関への受診は職員が付き添い、専門医への受診は基本的には家族等が付き添うこととなっている。 利用者の診療情報は受診病院と全て電子メールでやり取りをしており、全職員で共有している。 必要に応じて協力歯科医院の訪問歯科診療を受診することができる。 管理者が看護師であるため、緊急時にも適切な医療が受けられるよう体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連携を取り支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接クリニックに入院はもちろん、別病院に入院した場合でもクリニック看護師を介して情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、状況に応じて説明している	重度化した場合や看取り介護に関する事業所の対応指針を作成し、契約時に事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明して同意を得ている。 事業所はこれまでに看取りの経験はないが、全職員と隣接する運営母体の医療機関の医師や看護師と方針を共有し、重度化や終末期の支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接クリニックと連携し、対応できるような体制にしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練など定期的に行うが部分的なものになってしまう傾向がある。地域との関係は少ない	消防署立会いを含めた総合避難訓練を年2回実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施したり訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練実施後は課題や反省点を話し合っ て記録し、次回の訓練に活かしている。 災害の発生に備えて隣接する運営母体の医療機関と合同で食糧や飲料水、おむつ、寝具類、ラジオ、懐中電灯、電池、防災無線などを備蓄している。	夜間を想定した避難訓練を実施したり、運営推進会議に図ったりして避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているので、できるだけ心掛け声かけや対応をしている。まれに、慣れから来るものや仲の良い関係からか、言葉使いなどが雑になることもあった	職員は「利用者の立場に立ち、安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援します」との理念を大切にしながら利用者の支援にあたっており、一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。 排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人主体の生活ができるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールに沿って個々のペースで生活してもらっているが、透析治療もあるので全部が希望どおりにはならない時もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により対応している			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病状から栄養管理が必要なため、クリニック厨房で作られた食事を提供している。できることは自分でやってもらっているが、車いす利用者が増えなかなか難しくなっている	献立は法人の栄養士が作成しているが、利用者の苦手な食べ物には代替品を用意している。 お好み焼きやたこ焼き、バーベキューなどを取り入れたり、利用者の希望を聞いて計画的に外食をしたりして、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう工夫している。 職員は利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気ですることができるよう支援するとともに、利用者は能力に応じて食材を刻んだり、食事の準備やテーブル拭き、下膳などの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、栄養士と相談しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度チェックしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者に合わせて声かけをして支援を行っている	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 自分で排泄のタイミングを掴んでトイレへ行ける利用者が多いので、排泄の失敗を防ぐため便秘対策が支援の課題となっており、月1回の職員会議で定期的に話し合っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、栄養士と相談しながら支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週3回の入浴を支援し、体調に合わせて調整している	入浴は基本的には週3回人工透析治療日でない火曜日、木曜日、土曜日の午前中となっているが、利用者の希望にそって1階でも2階でも入浴ができたり、入浴の順番を自由に変えたりできるよう支援している。 職員は柚子湯や菖蒲湯などで、利用者が季節を感じながら寛いで入浴ができるよう工夫している。 浴室に手摺を付けたり、シャワーチェアや滑り止めマットを使用したりしながら安心して入浴ができるよう支援している。 職員の提案で、浴室の入り口には温かい雰囲気のある暖簾が掛けられている。 利用者は風呂上がりには居間に備えてある冷蔵庫から飲み物を出して飲むなど、ゆったりと寛いだ気分を満喫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態を把握して支援できていると思う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックからの注意事項等、漏れがないよう確認しながら支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在興味があるものや家族の話、以前の生活歴を参考にし、行事などで活躍できるように支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出や本人、家族の要望での外泊支援。体調と天候が良ければ近くの散歩などしている	人工透析治療日でない天気の良い日は、利用者の希望や体調を考慮しながら散歩や買い物に出かけている。 年間の外出計画を立て、隣接する運営母体の医療機関にある送迎車を利用し、花見や紅葉狩りなどに出かけ、季節感を味わえるよう支援している。 全ての利用者から外出の希望を聞き、年間の外出計画を立ててデパートへの買い物や外食などを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事などの外出時に簡単な買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はできるだけ清潔を保ち、危険物等もないように努めている。季節物の飾り付けなども行っている	共用空間は十分な採光を取り入れるとともに、温度管理をして快適に過ごせるよう配慮している。 窓外に広がる田園風景が利用者を楽しませるとともに、利用者は居間から続くテラスのプランターで、トマトやキュウリに水やりをして栽培し、生活感や季節感を味わっている。 玄関や居間、廊下に利用者が職員と一緒に制作した作品や習字、塗り絵、行事の写真、季節の花を飾り、和やかで落ち着いた雰囲気づくりをしている。 利用者は居間から続く和室で昼寝をしたり、入浴後に休んだりして、思い思いに寛いだ時間を過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になるのは難しいが、利用者同士団らんできるスペースは確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使うものは基本的に自由。入居時に家族と話使いやすいものや馴染みのあるものを入れてもらっている	利用者は居室にテレビや冷蔵庫、タンス、寝具などの使い慣れた物品を持ち込んでいるほか、カレンダーや家族等の写真、趣味の小物、愛用品、思い出の物品、手作り作品、鉢植えの植物などを置き、思い思いに居心地のよい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を招くようなものなど置かないようにし、利用者はもちろん、職員も安全に仕事ができるよう努めている		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームハーモニー

作成日 平成25年12月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の具体的な行為などの理解が足りていない	全職員が具体的に理解できるようにする	外部評価後すぐに職員会議を利用して、参考資料を配り、改めて身体拘束についてを認識するよう話しをした。今後研修も開催していきたい。	年数回継続的
2	10	利用者、家族の意見の反映	言い出しづらい意見を上手に聞き出し、それを運営に反映させる	今後、職員で話し合い、どのような聞き取り方や内容がよいか決めて、ご家族にアンケートを取ってみたい。	6か月
3	35	災害時の近隣協力体制と夜間を想定した避難訓練	災害時の協力を得られる環境づくり	近隣に協力を得られる住宅等が少なく難しいところもあるが、日頃から何らかの形で声をかけ当施設を知ってもらうよう努め、避難訓練の協力をお願いする。職員間での夜間想定訓練は来月実施予定になっている。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。